

弓削商船高等専門学校

【準学士課程・専攻科課程共通】

◎校訓 みなぎる気力と、たゆまぬ努力で、めざそう、悔いなき学生生活
◎教育方針 1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成 2. 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造力のある人材の育成 3. 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

【準学士課程】

	◎教育目標		ディプロマ・ポリシー (DP：卒業の認定に関する方針)	カリキュラム・ポリシー (CP：教育課程の編成及び実施に関する方針)	アドミッション・ポリシー (AP：入学者の受入れに関する方針)
	教養教育	専門教育			
商船学科	幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成	船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成	<p>商船学科は、本校が掲げる教育方針及び教育目標「幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者の育成」の下、船舶職員として必要とされる知識と技能を備え、倫理観と責任感をもって国内外の海事産業で活躍できる人材を育成します。</p> <p>そのために以下に示す能力を身につけ、学業成績の評価等に関する規定に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <p>(D1) 技術者として必要な基礎的能力(基礎力) 1-1: 日本語や英語によるコミュニケーションの基礎となる知識や技能を習得し、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる。 1-2: 工学の基本的問題を解決するために必要な数学の知識や計算技術を習得し、工学における現象と関連づけて活用できる。 1-3: 理学の基本知識を習得して自然現象を系統的・論理的に考えていく能力を養い、自然の諸現象を科学的に考察できる。 1-4: 民主的な国家・社会の形成者として主体的に社会に参画するために必要な社会科学的な知識・理論・情報を利用できる。</p> <p>(D2) 船舶職員として必要な基礎的知識と技能(専門基礎力・安全対応力・情報活用力) 2-1: 海洋の自然的特性を理解し、海洋の有用性や危険性を正しく把握できる。 2-2: 海事産業のあらましを理解し、船舶職員の社会的意義を把握できる。 2-3: 保護具や安全装置の意義や非常用機器・設備の原理を理解し、正しく取り扱うことができる。 2-4: 必要な情報を適切に収集・取得でき、情報セキュリティに配慮して活用できる。</p> <p>(D3) 航海系船舶職員として必要な知識と技能(専門力【航海系】) 3-1: 海図や航路標識、自船の位置を求めるための測定及び計算方法、航海計器の原理や取扱について習得し、航海に必要な基本的な能力を身に付けている。 3-2: 船舶職員として必要な船舶の構造や設備、気象及び海象、操縦性能、貨物の積付けについて習得し、操船者として必要な能力を身に付けている。 3-3: 法体系や船舶・船員に係る法知識を習得し、それらを活用して船舶を運航するために必要な能力を身に付けている。</p> <p>(D4) 機関系船舶職員として必要な知識と技能(専門力【機関系】) 4-1: 内燃機関や蒸気動力プラントに関する知識・技術を習得し、実際に活用するために必要な基本的な能力を身に付けている。 4-2: 船舶運航に携わる補助機械について必要な知識・技術を習得し、実際に活用するために必要な基本的な能力を身に付けている。 4-3: 機械や構造物の動的挙動に関する知識・技術を習得し、それを実際に活用する能力を身に付けている。</p> <p>(D5) 技術者として必要なリーダーシップ、チームワーク及びコミュニケーションスキル(リーダーシップ力・チームワーク力・コミュニケーション力) 5-1: 他者との間で良好な人間関係を形成するための行動ができる。 5-2: チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。 5-3: 適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。 5-4: チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。</p> <p>(D6) 技術者として必要な業務完遂能力(自己完結力・問題解決力) 6-1: 自分に求められる役割や行動を把握し、確認できる。 6-2: やるべきことを実行するための具体的行動や計画を考えることができる。 6-3: 行う作業の内容を理解し、危険箇所を把握できる。 6-4: 直面している事象や出来事を分析して、対応すべき問題を特定できる。</p>	<p><教育課程の編成方針と教育内容> ディプロマ・ポリシーで示した能力を身に付けるために、海・船・港に関する知識と技術を総合的に学習し、世界で活躍できる海事技術者を育成します。具体的には、全国国立高専共通のモデルコアカリキュラム(MCC)をベースに、一般科目、専門科目、大型練習船実習からなる教育課程(カリキュラム)を体系的に編成します。</p> <p>(1) 一般科目 国語、英語、物理、数学などを基盤とした基礎科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D1、D2、D5、D6</p> <p>(2) 専門科目(共通) 航海・機関に共通して必要となる商船学の基盤となる専門科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D1、D2、D3/D4、D5、D6</p> <p>(3) 専門科目(航海) 3年後期コース選択後に履修する船舶職員(航海系)に関する専門科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3</p> <p>(4) 専門科目(機関) 3年後期コース選択後に履修する船舶職員(機関系)に関する専門科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D4</p> <p>(5) 専門科目(MDASH) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する専門科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D1、D2</p> <p>(6) 専門科目(実験・実習) 船員教育(航海・機関)として工学的実践技術を習得する専門科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3/D4、D5、D6</p> <p>(7) 大型練習船実習 実践的な船舶の運航、運用能力を身に付けるために実施する合計1年の大型練習船実習 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3/D4、D5、D6</p> <p>(8) 卒業研究 総合的能力(問題解決能力、論理的な思考力、チームワーク力、プレゼンテーション能力など)を開発するための科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D3/D4、D6</p> <p>(9) キャリア教育 低学年の特別活動や大型練習船実習などを通じて海・船・港に関する職業を中心としたキャリア形成に向けた準備を行う課程 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D5、D6</p> <p>講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせた授業でカリキュラムを編成します。3年次後期から航海コースと機関コースに分かれます。カリキュラムは、ディプロマ・ポリシー及びMCCごとに体系的に編成します。主体的・継続的に学習する力を育成するため、学修単位の科目を導入し、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行いません。</p> <p><教育の実施方法> (1) ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を学生が身に付けるために、教育課程の編成方針に基づいて配置された科目を修得させます。各科目の授業は、履修方法を説明し、シラバスに基づいて行います。 (2) 授業のみならず、課題等により学生の自学学習を促すとともに、ルーブリック等を利用して学生の主体的学習を支援します。 (3) 定期試験等を実施します。</p> <p><学修成果の評価方法> 学業成績は、科目ごとにシラバスに示した評価方法に基づいて、100点法で評価します。ただし、卒業研究、選択科目の一部については合格・不合格をもって評価することがあります。なお、学業成績の評価は、次の区分によるものとします。 優 80点~100点 良 70点~79点 可 60点~69点 不可 59点以下</p>	<p><求める学生像> ・中学校までの学習内容をしっかり理解しており、船や海に関する勉強をしたいと考えている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ち、いろいろな人と協力し合って行動できる、根気とチームワーク力のある人 ・社会の役に立ちたいという意識を持っている人 ・心身ともに健康で、海技士国家試験に係る身体検査基準を満たす人</p> <p><入学者選抜の基本方針> 入学者の選抜は、推薦による選抜と学力検査による選抜、帰国生徒特別選抜の3つの方法で行います。</p> <p>(1) 推薦による選抜 本校へ入学する意志が強く学業・人物共に優れ、在籍する学校長の推薦を受けた方を対象とし、調査書、健康診断証明書、推薦書及び面接(英語・国語・数学の口頭試問を含む。)の結果を総合して選抜します。</p> <p>(2) 学力検査による選抜 学力検査、調査書及び健康診断証明書の結果を総合して選抜します。学力検査は国語、数学、英語、理科、社会の5科目による試験とします。</p> <p>(3) 帰国生徒特別選抜 保護者の海外勤務等により外国において教育を受けた方で本校の募集要項に示す要件を満たす方を対象とし、学力検査、調査書、作文、面接及び健康診断証明書の結果を総合して選抜します。学力検査は数学、英語、理科の3科目による試験とします</p>

弓削商船高等専門学校

【準学士課程・専攻科課程共通】

◎校訓 みなぎる気力と、たゆまぬ努力で、めざそう、悔いなき学生生活
◎教育方針 1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成 2. 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造力のある人材の育成 3. 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

【準学士課程】

	◎教育目標		ディプロマ・ポリシー (DP：卒業の認定に関する方針)	カリキュラム・ポリシー (CP：教育課程の編成及び実施に関する方針)	アドミッション・ポリシー (AP：入学者の受入れに関する方針)
	教養教育	専門教育			
電子機械工学科	幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成	ものづくりのできる実践的な技術者一計画・設計から生産・保守運用までできる技術者一の育成	<p>電子機械工学科は、本校が掲げる教育方針及び教育目標「幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者の育成」の下、機械工学及び電気工学の理論や技術を様々な分野に応用し、倫理観と責任感を持って社会に貢献できる人材を育成します。 そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規定に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <p>(D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力(コミュニケーション力) 1-1: 日本語における適切な文章表現及び口頭の意味伝達ができる。 1-2: 日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめる。 1-3: 自分の考えを簡潔な英語で表現できる。</p> <p>(D2) ロボット工学に関する基本的技術及び工学への応用技術(専門基礎力) 2-1: ロボット工学の特に機械設計者に必要な技術を身に付けている。 2-2: 種々の力学に基づきを分析する技術を身に付けている。 2-3: プレゼンテーションを通して、自分の意見を主張できる。</p> <p>(D3) 機械工学と電気工学の複合分野における技術の基礎となる知識と技能を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力(専門応用力) 3-1: 工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身に付けている。 3-2: 多様な専門分野の関連性を理解することができる。 3-3: 基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる。 3-4: 基礎的な実験技術を身に付けている。</p> <p>(D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性(協働力) 4-1: 広い視野で物事を考えることができる。 4-2: 日本と世界との関わりに関心を持つことができる。 4-3: 社会参加のための、社会人基礎力を身に付けている。 4-4: グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせる。 4-5: たくましく生きるための健康や体力を身に付けている。</p> <p>(D5) 社会に役立つ技術者としての倫理観(社会貢献力) 5-1: 技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる。 5-2: 社会における倫理的な問題を認識することができる。</p> <p>(D6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力(創造力) 6-1: 好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる。 6-2: 得意とする専門分野の知識、技術を身に付け、社会との関連を理解できる。 6-3: 主体性を持って継続的に学習できる。</p>	<p><教育課程の編成方針と教育内容> ディプロマ・ポリシーで示した能力を身に付けるために、全国国立高専共通のモデルコアカリキュラム(MCC)をベースに、一般科目と専門科目からなる教育課程(カリキュラム)を体系的に編成します。</p> <p>(1) 一般科目 国語、英語、物理、数学などを基盤とした基礎科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D1、D2、D3、D4、D5</p> <p>(2) 専門科目(機械系) 設計製造のための基盤である機械設計製図、材料工学や工作・加工法、熱・流体・機械力学、ロボット設計技術などの専門科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3</p> <p>(3) 専門科目(電気・情報系) 自設計製造に強く関係する電気回路・電子回路、制御工学、情報処理など現代の複合的な科学技術に対応するための科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3</p> <p>(4) 専門科目(MDASH) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する専門科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3</p> <p>(5) 専門科目(実験・実習) 工学実験、工作実習や学年・学科横断型のPBLなど、学んだことを応用できる実践的・創造的能力を身に付けるための科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3、D4、D6</p> <p>(6) 卒業研究 総合的能力(問題解決能力、論理的な思考力、チームワーク力、プレゼンテーション能力など)を開発するための科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3、D4、D6</p> <p>(7) キャリア教育 特別講義、特別活動など社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D4、D5、D6</p> <p>カリキュラムは、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせ、ディプロマ・ポリシー及びMCCごとに体系的に編成します。主体的・継続的に学習する力を育成するため、学修単位の科目を導入し、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行ないます。</p> <p><教育の実施方法> (1) ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を学生が身に付けるために、教育課程の編成方針に基づいて配置された科目を修得させます。各科目の授業は、履修方法を説明し、シラバスに基づいて行います。 (2) 授業のみならず、課題等により学生の自学学習を促すとともに、ルーブリック等を利用して学生の主体的学習を支援します。 (3) 定期試験等を実施します。</p> <p><学修成果の評価方法> 学業成績は、科目ごとにシラバスに示した評価方法に基づいて、100点法で評価します。ただし、卒業研究、選択科目の一部については合格・不合格をもって評価することがあります。なお、学業成績の評価は、次の区分によるものとします。 優 80点~100点 良 70点~79点 可 60点~69点 不可 59点以下</p>	<p><求める学生像> ・中学校までの学習内容をしっかり理解しており、機械や電気や情報、ものづくりの特にロボット設計技術に関する勉強をしたいと考えている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ち、いろいろな人と協力し合って行動できる、根気とチームワーク力のある人 ・社会の役に立ちたいという意識を持っている人</p> <p><入学者選抜の基本方針> 入学者の選抜は、推薦による選抜と学力検査による選抜、帰国生徒特別選抜の3つの方法で行います。</p> <p>(1) 推薦による選抜 本校へ入学する意志が強く学業・人物共に優れ、在籍する学校長の推薦を受けた方を対象とし、調査書、推薦書及び面接(英語・国語・数学の口頭試問を含む。)の結果を総合して選抜します。</p> <p>(2) 学力検査による選抜 学力検査及び調査書の結果を総合して選抜します。学力検査は国語、数学、英語、理科、社会の5科目による試験とします。</p> <p>(3) 帰国生徒特別選抜 保護者の海外勤務等により外国において教育を受けた方で本校の募集要項に示す要件を満たす方を対象とし、学力検査、調査書、作文及び面接の結果を総合して選抜します。学力検査は数学、英語、理科の3科目による試験とします。</p> <p>【4年次編入のアドミッション・ポリシー(AP：入学者の受入れに関する方針)】 <求める学生像> ・高等学校卒業程度の知識・技能を習得し、機械や電気や情報、ものづくりの特にロボット設計技術に関する勉強をしたいと考えている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ち、いろいろな人と協力し合って行動できる、根気とチームワーク力のある人 ・社会の役に立ちたいという意識を持っている人</p> <p><入学者選抜の基本方針> 調査書、学力検査、口頭試問及び面接の結果を総合して選抜します。</p>

弓削商船高等専門学校

【準学士課程・専攻科課程共通】

◎校訓 みなぎる気力と、たゆまぬ努力で、めざそう、悔いなき学生生活
◎教育方針 1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成 2. 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造力のある人材の育成 3. 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

【準学士課程】

	◎教育目標		ディプロマ・ポリシー (DP：卒業の認定に関する方針)	カリキュラム・ポリシー (CP：教育課程の編成及び実施に関する方針)	アドミッション・ポリシー (AP：入学者の受入れに関する方針)
	教養教育	専門教育			
情報工学科	幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成	情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成	<p>情報工学科は、本校が掲げる教育方針及び教育目標「幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な想像力を備えた実践的技術者の育成」の下、情報工学の理論や技術を様々な分野に応用し、倫理観と責任感を持って多種多様な業種・職種で活躍し、社会に貢献できる人材を育成します。</p> <p>そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規定に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <p>(D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力 (コミュニケーション力) 1-1: 日本語における適切な文章表現及び口頭の意味伝達ができる。 1-2: 日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめる。 1-3: 自分の考えを簡潔な英語で表現できる。</p> <p>(D2) 情報通信に関する基本的技術及び工学への応用技術 (専門基礎力) 2-1: 情報通信に関する基礎的技術を身に付けている。 2-2: 工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身に付けている。 2-3: 種々の情報を分析する技術を身に付けている。 2-4: プレゼンテーションを通して、自分の意見が主張できる。</p> <p>(D3) 専門基礎力を活かし、複眼的な視点から問題を解決する能力 (専門応用力) 3-1: ネットワーク、人工知能など多様な専門分野の関連性を理解することができる。 3-2: 基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる。 3-3: 基礎的な実験技術を身に付けている。</p> <p>(D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性 (協働力) 4-1: 広い視野で物事を考えることができる。 4-2: 日本と世界との関わりに関心を持つことができる。 4-3: 社会参加のための、社会人基礎力を身に付けている。 4-4: グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせる。 4-5: たくましく生きるための健康や体力を身に付けている。</p> <p>(D5) 社会に役立つ技術者としての倫理観 (社会貢献力) 5-1: 技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる。 5-2: 社会における倫理的な問題を認識することができる。</p> <p>(D6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力 (創造力) 6-1: 好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる。 6-2: 得意とする専門分野の知識、技術を身に付け、社会との関連を理解できる。 6-3: 主体性を持って継続的に学習できる。</p>	<p><教育課程の編成方針と教育内容> ディプロマ・ポリシーで示した能力を身に付けるために、全国国立高専共通のモデルコアカリキュラム (MCC) をベースに、一般科目と専門科目からなる教育課程 (カリキュラム) を体系的に編成します。</p> <p>(1) 一般科目 国語、英語、物理、数学などを基盤とした基礎科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D1、D2、D4</p> <p>(2) 専門科目 情報システムやインターネットなど、現代の複合的な科学技術に対応するため、プログラミング、ネットワーク、人工知能などを習得する必修科目、および機械学習、サイバーセキュリティなど、より高度な学習に対応する選択科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3、D5、D6</p> <p>(3) 専門科目 (MDASH) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する専門科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3</p> <p>(4) 専門科目 (実験・実習) 情報工学実験や学年・学科横断型のPBLなど、学んだことを応用できる実践的・創造的能力を身に付けるための科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D2、D3、D4、D6</p> <p>(5) 卒業研究 総合的能力 (問題解決能力、論理的な思考力、チームワーク力、プレゼンテーション能力など)を開発するための科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D1、D2、D3、D4、D5、D6</p> <p>(6) 特別活動 社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目 ディプロマ・ポリシーに示す能力: D1、D4、D5、D6</p> <p>カリキュラムは、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせ、ディプロマ・ポリシー及びMCCごとに体系的に編成します。主体的・継続的に学習する力を育成するため、学修単位の科目を導入し、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行ないます。</p> <p><教育の実施方法> (1) ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を学生が身に付けるために、教育課程の編成方針に基づいて配置された科目を修得させます。各科目の授業は、履修方法を説明し、シラバスに基づいて行います。 (2) 授業のみならず、課題等により学生の自学学習を促すとともに、ルーブリック等を利用して学生の主体的学習を支援します。 (3) 定期試験等を実施します。</p> <p><学修成果の評価方法> 学業成績は、科目ごとにシラバスに示した評価方法に基づいて、100点法で評価します。ただし、卒業研究、選択科目の一部については合格・不合格をもって評価することがあります。なお、学業成績の評価は、次の区分によるものとします。 優 80点~100点 良 70点~79点 可 60点~69点 不可 59点以下</p>	<p><求める学生像> ・中学校までの学習内容をしっかり理解しており、コンピュータに関する勉強をしたいと考えている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ち、いろいろな人と協力し合って行動できる、根気とチームワーク力のある人 ・社会の役に立ちたいという意識を持っている人</p> <p><入学者選抜の基本方針> 入学者の選抜は、推薦による選抜と学力検査による選抜、帰国生徒特別選抜の3つの方法で行います。</p> <p>(1) 推薦による選抜 本校へ入学する意志が強く学業・人物共に優れ、在籍する学校長の推薦を受けた方を対象とし、調査書、推薦書及び面接 (英語・国語・数学の口頭試問を含む。)の結果を総合して選抜します。</p> <p>(2) 学力検査による選抜 学力検査及び調査書の結果を総合して選抜します。学力検査は国語、数学、英語、理科、社会の5科目による試験とします。</p> <p>(3) 帰国生徒特別選抜 保護者の海外勤務等により外国において教育を受けた方で本校の募集要項に示す要件を満たす方を対象とし、学力検査、調査書、作文及び面接の結果を総合して選抜します。学力検査は数学、英語、理科の3科目による試験とします。</p> <p>【4年次編入のアドミッション・ポリシー (AP：入学者の受入れに関する方針)】 <求める学生像> ・高等学校卒業程度の知識・技能を習得し、コンピュータに関する勉強をしたいと考えている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ち、いろいろな人と協力し合って行動できる、根気とチームワーク力のある人 ・社会の役に立ちたいという意識を持っている人</p> <p><入学者選抜の基本方針> 調査書、学力検査、口頭試問及び面接の結果を総合して選抜します。</p>